愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅲ		
担当者(Instructors)	谷村 祐子	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業は、スポーツトレーナーに関わる学問を通じて、社会人スキルを高めてもらうことを最低条件の目的にしている。その中で関連知識を深めるために、自主的に努力してくれることを期待する。専門演習Ⅰ、Ⅱおよび関連科目で学んだ内容を踏まえ、卒業論文もしくはゼミナール論文のための研究を進め、論理的な考え方や企画・運営の方法などを学ぶ。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は、グループワークを中心とした演習形式で実施され、受講者同士での課題に関するプレゼンテーション、フィールドワーク、ディスカッション、ピアインストラクション（根拠やプロセスを教え合うこと）を積極的に取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス、卒業論文・就職活動のスケジュールの確認、面談（１）	授業の進め方、春季休暇中の研究の進捗状況について確認する。	□
第2回	タイトルページと目次の作り方、面談（２）	タイトルページと目次の作り方についてをWordでの作成方法を学ぶ。面談で進捗状況についてのディスカッションを行う。	□
第3回	研究計画の書類添削 研究計画に対しての討議	受講者同士で、書類に不備はないか、体裁が整っているかを確認し、内容について討議する。	□
第4回	文献抄読（１）	受講生は卒業研究に関する文献を紹介する（２名／回）	□
第5回	文献抄読（２）	第４回で発表した受講生以外の受講生は卒業研究に関する文献を紹介する（２名／回）	□
第6回	文献抄読（３）	第４、５回で発表した受講生以外の受講生は卒業研究に関する文献を紹介する（２名／回）	□
第7回	文献抄読（４）	第４、５、６回で発表した受講生以外の受講生は卒業研究に関する文献を紹介する（２名／回）	□
第8回	コース合同の進捗状況中間発表会	トレーナーコース合同で進捗状況の報告を行う。	□
第9回	研究実施の準備（１） 論文のあらすじをつくる（１）	それぞれの研究に必要な準備を行う。 期末課題に向けて書類を作成する。	□
第10回	研究実施の準備（２） 論文のあらすじをつくる（２）	それぞれの研究に必要な準備を行う。 期末課題に向けて書類を作成する。	□
第11回	研究実施の実施・実施報告（１） 統計手法の確認（１）	実施したデータをまとめる。 収集したデータに対して適切な統計手法を学ぶ。	□
第12回	研究実施の実施・実施報告（２） 統計手法の確認（２）	実施したデータをまとめる。 収集したデータに対して適切な統計手法を学ぶ。	□
第13回	ゼミ内進捗状況発表会（１）	ゼミ内で進捗状況を発表し、受講者より意見をもらう。 コース合同の発表会、発表者を選ぶ。	□
第14回	ゼミ内進捗状況発表会（２）	ゼミ内で進捗状況を発表し、受講者より意見をもらう。 コース合同の発表会、発表者を選ぶ。	□
第15回	コース合同の進捗状況報告期末発表会	トレーナーコース合同で進捗状況の報告を行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

【共通】 事前：「レポートの作成の仕方」「プレゼンの仕方」などの研究に関する書籍を１冊は読んでみること。（2時間程度）。 事後：演習ノート（卒論ノート）を作成し、授業で指摘された点、学んだ点をまとめる。　　毎回、課題が出るので、その課題に取り組む（2時

間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポートは添削・採点をしてから返却する。　全体として共通のポイントに関しては全体で共有し、個別のポイントに関しては学生個々に個別指導をする

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018人間健康DP2	卒業論文もしくはゼミナール論文の研究計画の立案するなかで健康、スポーツの分野における問題意識をもち、解決方法を探求することができる。具体的には「計画を立てる」「データがそろった状態で夏季休暇に入る」ことが達成されているかで判断する。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	15%	85%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の進捗状況（スライド提出）20%
文献紹介（レジュメとパワーポイント）20%
論文のあらすじ15%
先行研究の収集　10%
卒業論文（今後の計画を含める）　20%

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	資料は適宜配布をする	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	福永哲夫、山本正嘉．体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ）．　市村出版．	978-4902109498
2	出村慎一．健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方．杏林書院．	978-4764411623
3	酒井聡樹．これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版．共立出版	978-4320005983
4		
5		